

## 農業 6 次産業化の先進国、オランダ視察レポート

農産物の先進国オランダは、米国に次いで世界第 2 位を誇る農産物輸出大国であるが、それを支えている理由の一つは高度化した施設園芸、つまり植物工場にあると言われている。そして、これを支えているのが、生産性をより高めるために蓄積された様々な要素技術と、生産から加工、販売までにわたる、ビジネスとしての効率性の追求である。今回、オランダ・ハーグにある、トマトワールドという施設の取り組みについて現地視察を行なったので、ご紹介します。



### ◆ 農業の総合力を高める施設、トマトワールドとは

ハーグ南部のこの付近一帯は、大型の屋内型農業施設が建ち並び、一見すると、まさに工場地帯といった趣である。その一角にあるトマトワールドは、トマトに関する園芸技術の蓄積と交流を目的に、6つのトマト農家が集まって設立された会社であり、約 30 社の企業からの出資により運営されている。

衛生面を重視するトマト生産では、閉鎖型ハウスにより、農薬や肥料をほとんど使用しない水耕栽培を採用している。こうした生育環境においては、品種に応じた細かな管理のノウハウが必要であり、受粉や害虫駆除などでも、生物ツールを用いるなど、先進的な農業の試みを積極的に取り入れ、生産性の向上を追求している。



さらにここでの注目すべきもう一つの点は、精油所などの産業界から排出される余剰 CO2 を育成に活用し、生産性を上げていることである。これまで減らすことに苦慮してきた CO2 を積極的に活用するという一石二鳥の発想であり、植物工場が集積していることで、回収した余剰 CO2 を販売するビジネスが成立している。

### ◆ 国内の食品分野における地域産業政策の推進

農林水産省では、地域の第 1 次産業と、これに関連する第 2、第 3 次産業（加工・販売等）に係る事業の融合等による、地域ビジネスの展開と、新たな業態の創出を行う取り組み（6 次産業化）を推進している。生産から加工、流通、消費にわたるサプライチェーン全体において、消費者ニーズの変化にきめ細かく対応していくことにより、新たな産業を創出し、定住できる地域社会の構築を目指している。

又、国家戦略特区の農業特区に指定された新潟市や兵庫県養父市では、自治体主導で農地の流動化を進め、企業など幅広い担い手の受け入れによる農業再生の取り組みが、具体的に試行されていく予定である。その他の地方都市においても、この様な農業の革新の試みが進められており、当社も各方面におけるマネジメント機能を発揮し、事業推進に寄与している。

(瀬谷啓二、草間理彰)

